



八中だより



第9号
令和8年9月1日
府中市立
府中第八中学校

長い夏休みを終えて、学校には元気な生徒たちの声が戻ってきました。夏休みには、それぞれが、学習に意欲的に取り組んだり、家庭、地域で活動したり、部活動に励んだりする中で有意義なときを過ごしたことを思います。

二学期が始まりました。今学期も生徒たちの学校生活が充実したものになりますよう、教職員一同力を合わせてまいります。一学期に引き続きご協力をよろしくお願いいたします。



『夢中になってやったこと』：高一のときの冒険（始業式の話の一部）

校長 高汐 康浩

終業式の「夢中」をテーマにした話をしたので、私自身の中学生、高校生だった頃に計画をして実行したことをいろいろと思い出した。

私は、生徒の皆さんにはお伝えしているとおりの地図帳が大好きだった。初めて地図帳を手にしたのは小学四年生のとき、社会科の授業で使うやつだ。地図帳を見始めると、時を忘れて没頭した。授業中にこっそり見と見しまつて先生からこっぴどく叱られたことがあった。その地図好きはその後の進路選択にも大きく影響をした。高校を卒業するとある大学の地理学科に進学した。いわゆる地誌学、経済地理学、文化地理学、地震学、陸水学、気候学、気象学、地形学などの研究をする学科だ。一応は真面目に勉強したが、私は地図を眺めながら、その地域のことを詳しく知る、そして、そこに行く、その部分だけに強い興味をもち続けた。高校までは日本の地図中心であったが、大学に入ると世界に興味があった。

地図好きで得をしたことがたくさんある。そのうちのひとつは、誰よりも方向感覚や直感的にその土地がどのような場所なのかを捉える「勘（かん）」を身に付けられたことだ。見知らぬ土地に行ったりとしよう。きつと初めての場合では、道に迷ったり、戸惑ったりすることがあるだろう。私の場合は初めての土地でもだいたいどの方向に何があるかのような町の構造になっているのか、だいたい想像がつく。学生時代に仲間と旅行に行った際にはけっこう重宝がられた。例えば、高校一年生のときに仲間と関西



〈在籍生徒数〉 一学年232名、二学年250名、三学年218名
全校生徒数700名

〈学校住所・電話番号〉
〒182-0035 府中市四谷一丁目一八二七
電話 〇四二(三六四)一八八一

★仕方の八中
実には精神が
ます。育つ確率
事。2面をい
だ。ぜひ、ご
さい！

方面に出かけたときは、初めての場所でも道や電車の乗り換えなど、的確に案内をすることができた。高校では、私のそんな特性を知った化学の先生が、写真のフィルム（※）を私に見せてその写真をどこで撮ったかを聞いた。私は「島根県の宍道湖畔だ」と思う」と答えたら化学の先生は大変驚いた。正解だったからだ。現像した写真を見ても答えるのが難しいのにフィルムだけで一度も訪れたことのない場所を当てたのだ。日ごろ見ている地図とフィルムで微（かす）かに確認できる地形とを結びつけた結果だ。

さて、中学三年生のときに計画した冒険の一つについて話したい。それは、無人島に行って生活することだ。高校一年の夏休みに実現させた。場所は、三重県にある牛島という小さな島だ。無人島なのでもちろん人はいない。定期船もない。無人島に行く計画を立てたものの、たやすくいくものではない。現在のようにインターネットもなければ、携帯電話もない。無人島計画を進めるために図書館や近所の本屋に通いつめた。本屋で立ち読みをしながらメモ帳にメモを取っていて店主に叱られたこともあったが、事情を説明すると協力してくれた。やっと船を出してくれる人を探し当てた。牛島の南にある答志（とうし）島というところにある民宿の主人だ。島滞在中に民宿の主人はときどき船でようすを見に来てくれた。一週間の無人島生活はすべてが刺激的で新鮮だった。魚を捕まえたり、流木で工作をしたり、真水を貯める装置をつくったり、いろいろな体験をした。一週間後に本土に戻ったときは満足感で一杯だった。そして、サポートしてくれた大人たちに感謝の気持ちでいっぱいになった。

実は、今の私もあまり変わっていない。地図が好きだ。冒険心もある。暇があれば地図を眺め、その地を訪れた気分になる。それでは気が済まず実際に足を運ぶこともある。体験は多くの知識と技術、そして、生活の活力や心身の健康を与えてくれると思っている。まさに、コンピュータはない時代の「プログラミング的思考」ノーデバイスプログラミング思考だ。青春時代には「プログラミング的思考」がぐんぐん成長する。



〔※フィルム〕

かしこ

〔敬称略〕

-

●○九月の主な予定○●